

板橋区医師会 理事
大野 安実

病院部

病院部では開放型の板橋区医師会病院の運営に医師会役員が参加して携わるほか、区内病院の連携を推進しております。区内病院で組織している病院部会は、2000年6月にそれまで救急告示医療機関が主体となって活動してきた救急部会を機能拡大して、医療体制の変化に連動してより包括的に病院の問題を検討する目的で設立されました。（板橋区医師会通報 No396 より）その後、医療情勢に合わせてその都度勉強会等を開催し、情報共有して意見交換を行っています。

2011年8月第1回板橋区救急医療検討会では帝京大学医学部附属病院救命救急科の坂本哲也教授より医師会主導で各病院の救急受け入れ情報、特に夜間の各科担当医情報をまとめ消防署救急本部への連絡システム構築の提案がありました。その後、区内の2次救急を行っている15病院にご協力いただき、2012年7月1日より板橋区医師会専用ウェブサイト imedas で板橋区救急病院当直医師情報の運営が開始されました。当時このシステムは救急要請から病院への患者搬送、外来診察までの時間短縮を目的とした救急体制をより円滑にする

ために考案された画期的なものでした。しかし、このシステムはその後の東京消防庁が管理する情報と一部重複し、各病院担当者の情報入力作業が負担増になる結果となり、残念ながら2017年秋にその役割を休止することになりました。板橋区は城北地区の中でも多くの病院があります。今後も板橋区医師会が各病院の連携の架け橋となる業務を遂行していきます。

広報部

広報部では板橋区医師会通報の発刊、区民向けのウェブサイト、板橋区医師会専用ウェブサイト imedas を運営しています。医師会通報の編集は、各支部の支部長あるいは副支部長と広報部理事とオブザーバーで構成した委員会で行っています。通報では主な医師会活動（総務部、公衆衛生部、地域医療部、在宅部、病院部、学術部など）や新会員・現会員の紹介、学術講演会や各医会活動、医師会病院だよりなどを紹介しています。全ページがカラーで他医師会雑誌にひけをとらない雑誌を発刊していますが、時代の変化に伴いその制作費を見直し、委員会での協議を経て2016年度

より年4回の発刊へ変更となりました。現代はICTの時代へ変化し日常生活になくはならないツールになっています。そこで医師会員専用ウェブサイト imedas の利用向上も考慮し一部のコンテンツは imedas へ移行することになりました。今後、医師会の情報はすべて imedas から閲覧可能となる時代を見据えて取り組んでいく必要があります。運営の見直しにより通報製作費を削減することが可能となりました。

imedas の最近の状況について追加いたします。情報のデジタル化に伴い紙ベースの通報や医学会誌の保存もPDF化し掲載することが進められ過去の情報を閲覧しやすくしました。また、疾患別の連携医療機関の案内ページは、連携医療機関の機能表を掲載し、会員以外の区内病院連携室や訪問看護ステーションにもID・パスワードを発行して閲覧可能としています。そのほかに2015年10月からはインフルエンザ情報について各医療機関のインフルエンザ発症状況の入力により流行地域や流行状況の把握が可能となりました。また、一般向けのウェブサイトや会員専用ウェブサイト imedas を見やすく使いやすく利用率を向上させることも重要です。今後はスマートフォンなどのモバイルからも閲覧可能となるようリニューアルを行う方針です。広報部の年間費用については今後も費用対効果を考慮し無駄のないより経済的な運営を行ってまいります。

4 病院との医療連携連絡会議

医師会と各4病院との連携は、この20

年に発展しました。その前身となるのが1997年12月に発足した、板橋区、板橋区医師会、東京都老人医療センターとの「地域保健福祉・医療連携三者協議会」です。その後、医師会は単独で各病院との医療連携連絡会議を発足し、連携を深めてきました。帝京大学医学部附属病院(1999年6月)、日本大学医学部附属板橋病院(2000年2月)、東京都老人医療センター(現東京都健康長寿医療センター 2005年12月)東京都保健医療公社豊島病院(2009年11月)。

会議には病院側は病院長、副院長、各科教授・准教授・講師、各科部長、看護部長、連携担当者、医師会側は役員及び板橋区医師会病院院長、関係部署職員が出席し協議します。内容は医師会より主治医意見書の依頼に対する期日内での実績状況や他施設との比較、医学会の報告及び翌年の協力要請、板橋区医師会若手医師奨励賞受賞者の報告、疾患別医療連携事業の実績報告などです。病院側からは紹介・逆紹介の実績報告、新任教授の紹介やトピックスとなる各科の検査・診断・治療の紹介や事業内容の報告がされます。また、患者紹介での問題点や課題などの忌憚のない意見が出され各事象について病院側は対策等についての検討や回答がなされます。今後も地域医療のために医療連携連絡会議を継続させていきます。

なお、本稿には元各部理事を歴任された多比良清先生にご助言をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

編集後記

この度、板橋区医師会創立70周年における最近20年間の記念誌作成に携わらせていただいたことに感謝申し上げます。編集委員並びに事務局の尽力により、満足できる記念誌を作成することができました。

さて、本邦は少子高齢化が進行しており超高齢社会を迎えております。それに伴い医療現場も大きな変貌を遂げており医師会は常にその難題に向き合ってきました。歴代の会長がその時代に必要とされる環境を作り、実績を積み上げてきたことは本誌をご一読いただきご理解いただけたと思います。高島平地域は高齢化率が30%を超えており医師会や行政の取り組みが全国への先駆けにもなっております。板橋区は大学病院、都立系総合病院の他に多くの病院があり医療施設が豊富な地域です。そして、区民にとっては医療資源が充実していることも事実で、医療従事者はお互いに切磋琢磨しより良い医療を提供することが最重要と考えられます。そのためには医師会が中心となって各病院の足並みを揃えることも大切な役割であり、まさに板橋区医師会はそれを実行してきました。各病院関係者はその状況を理解しており良好な病診連携・病病連携をしています。また、医師会が中心となって疾患別連携の会や連携ツールが運用されていることは板橋区の特徴でもあり、今後も各病院や多職種との連携が地域包括ケアシステムを構築していくこととなります。これらの実現のために、医師会は行政と協議を重ね、区民のための様々な医療サービスの提供などの要望も行っております。

今後、地域医療のみならず日本の医療を支えるためには医師会運営の継続が重要と思います。結びに諸先輩方並びにすべての関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。(大野 安実)

70周年記念誌編纂小委員会

委員長	大野 安実	
委員	水野 重樹	齋藤 英治
	鈴木 育夫	板倉 宏尚
	石川 徹	徳安 良紀
編纂協力委員	天木 聡	萩原 照久
	泉 裕之	宮川美知子
	落合 恒明	安田 榮一
	篠遠 彰	弓倉 整
	杉田 尚史	依藤 壽

広報委員会

委員	鈴木 芳枝	横山 卓司
	風見 明	蜂巢 将
	仁木美奈子	吉野 正俊
	浅倉 公治	平山 貴度

板橋区医師会 70周年記念誌

— 近年20年史 (1997～2017) —

2018年3月19日発行

発行

公益社団法人 板橋区医師会

会長 水野 重樹

〒173-0012 東京都板橋区大和町 1-7

電話 03-3962-1301 FAX 03-3964-3652

編集

板橋区医師会 70周年記念誌編纂小委員会

制作・印刷

有限会社 デザインスタジオ案図

〒173-0025 東京都板橋区熊野町 15-6 3F・4F

電話 03-5986-2001 FAX 03-5986-2552



公益社団法人

板橋区医師会